

1、自己評価実施について

○実施期間 2021年1月25日～3月31日（新型コロナウイルスに伴う対応の為、集計・公表に遅れ）

○回答数 保護者評価 14人（17人中）

スタッフ自己評価 16人（18人中）

○回答数内訳 別紙

2、評価の分析

【保護者の評価】

○施設・設備の整備について

活動場所の面積では、わからないが1名。他事業所などとの比較対象がないこと、保護者によっては、直接活動の様子を見る機会が取れないことが理由と思われる。

指導員の配置に関して、わからないが2名。こちらも活動場所の面積同様、他事業所などとの比較対象がないことが理由と思われる。

○活動の全体状況の整備

個人情報の取り扱いで、わからないが1名。個人情報に関する出来事がなく、実際に確認などのやり取りが行われていない家庭もあるので、まだ、どのように取り扱われているかを実感していない方がいることが理由と思われる。

子どもに応じた活動・活動に満足では、いいえが1名。長期活動中での屋外の活動や、運動を中心とした活動を希望する保護者の意見もあり、そうした活動も実施はしているが十分と感じられていないことや、今年度は児童が活動中に怪我をする事例もあったことなどが理由と思われる。

その他の項目では全員、はいとの回答。活動を楽しみにしているの項目での、「楽しみがあるから学校も頑張れる」という意見は、家庭とも学校とも違う、第3の居場所としての放課後活動が評価されている。

○保護者との関係づくり

入会時の説明では、わからないが1名。変更があればいいいに説明してくれる。という意見もあるが、入会時や、制度の変更などでの説明は画一的な説明になっていることで、保護者の理解に違いが出ていることが原因と思われる。

保護者や家族が交流できる機会でも、全員はいではあるが、工夫はされているが参加者に偏りがあるという意見。父母会への協力では、わからないが1名。つくろうとしてはいるが、全員ではつくれていないという意見から、全体的な取り組みとしては不十分と感じている意見がある。

そのほかの項目では個別の意見も肯定的なものが多く、全員が評価をしてくれている。

【スタッフ自己評価】

○施設・設備の整備

各項目、わからない、いいえが複数名、利用定員と施設の面積、職員の配置人数での、わからないに関しては、他施設を知らず比較対照がないためと思われる。いいえについては、子ども、スタッフ合

わせて全員が動き回る活動では十分なスペースがないと感じることがあるための人数、面積の評価と思われる。

備品の損壊・故障などについては、意見欄にある、都度の修理はしているが、十分かはわからない、十分ではないという認識があると思われる。照明器具については設備の老朽化により故障があることが理由と思われる。

部外者の侵入に関しては、スタッフでの配慮はしているが、施錠していないことで、未然に防ぐには不十分という評価。

○活動の全体状況の整備

倫理綱領、虐待防止マニュアル、個人情報に対しては各項目、わからない・いいえが複数名いる。具体的な意見の記載はないが、倫理綱領、各種マニュアル等は策定しているが、周知が十分でないこと。研修については、行っているが、受けられるスタッフとそうでないスタッフがいることなどから、自身で十分に理解・実践が出来ているかわからない、という評価になっているものと思われる。

○実践的な力量の向上

わからないという評価が多いが、意見では前向きに子どもたちに向き合おうとしている意見が多く、肯定的な事実の意味付けや、大人の育ちの項目に関して、わからないの意見が多いのも、自身の支援を謙虚に評価している結果と思われる。

外部の研修会については意見欄にもある通り、コロナ禍の影響を直接的に受けて、止むを得ない評価と言える

○保護者との関係づくり

パートのスタッフは入会時の面接や、会報の発行など、運営、広報にかかわる業務はおこなっていないので、わからないという評価が多いことになっていると思われる。

保護者の思いや願いの汲み取りでは、出来る限り汲み取ろうとしているが難しい、考察して関わっている、など汲み取ろうとしているが、結果が明確ではないものなので、わからないという評価になっているものと思われる

保護者の父母会への協力、親子・家族行事についてはコロナ禍の影響もあり、中止や規模の縮小、変更が多く、意見にある難しい状況がそのまま反映されているものと思われる

○関係者・関係機関との連携

相談支援事業所、学校との支援会議、協力医療機関、卒後の諸機関、放課後活動の連絡会での情報共有がわからないという評価が多い。子どもたちの情報は伝えているが、どことのどんなやりとりでの情報なのか、までは具体的に伝えていないので、どんな関係者・機関があるかわからないことが理由と思われる。

協力医療機関に関しては、あるのだが、利用する機会がなかったことで、わからないという意見になっていると思われる。

3、改善目標

○保護者の評価

今年度は感染対策をしながらも保護者会を実施して、活動の様子を写真と共に紹介したり、制度や情勢についての話をしたりした事。学童ニュースも子どもたちの様子だけでなく、活動そのものに

スポットをあてた内容も載せるようにした結果、全体的にわからないという評価が減っていると思われる。引き続き、保護者との情報共有やコミュニケーションをとっていくことで、理解を広げていく。

全体的に肯定的な意見が多いが、保護者同士のつながりでは、参加者の偏りや、つくろうとしているが全員ではつれていないという意見もあり、リモートでの保護者会の開催や、日程を増やすなど保護者同士でのコミュニケーションが取れる機会も確保していく。

活動そのものに関しては虐待の不安はなく、子どもも楽しみにしてくれていると、ほとんどの保護者が評価してくれているのが、評価の分析にもある怪我によって、子どもを安心して送り出せないような不安が生じないように、事故報告書や、ヒヤリハット報告書の定期的な振り返りを行い、安全な活動の向上につなげていく。

○スタッフ自己評価

施設面での整備については、現在蛍光灯の設備の改修を進めている。備品の損壊についても、月に1回スタッフで施設整備を行い、留意点などを確認・改修しているが、シフトによっては関われないスタッフもいるので、書面と口頭での申し送りをして、結果をスタッフ全体で周知できるようにする。

活動の全体状況の整備、関係者・関係機関との連携については、直接関わっていない、把握・活用機会がないという意見があることから、通常行っている虐待防止研修や防災訓練の中でそれらの内容を再度確認して、関係する職員だけでなく、全スタッフが各種綱領、マニュアル等を周知できるようにしていく。

現在は年間を通じて研修や訓練を複数回実施し、全スタッフが勤務時間内に参加できるようにしているが、シフトに入っていないなくても訓練・研修のみの参加も促して、機会を増やしていく。

実践的な力量の向上については、子どもの課題やスタッフ同士の支援の価値観を共有する機会として、前述と同様研修などへ参加できる機会を可能な限り増やして、集団での議論を通して、子どもへの理解と支援への自信が深まっていくように取り組んでいく。

保護者との関係づくりについては、日常的にかかわれないこともあるので、新型コロナウイルス感染症の流行の状況も鑑みながら、スタッフと保護者が顔見知りになれる機会を増やしていく。